

# 久重のまちづくりに参画 子どもたちの躍進

## 高知県高知市 久重naturalチーム

### はじめに

久重naturalチームは「まちを元気にしたい！久重の魅力を地域内外に発信したい！」と、里山を舞台に体験活動を繰り返し広げ7年となる。「久重のまちづくり計画」策定会議への参加、こども・わかもの主体の団体「久重youth(ゆーす)」の誕生、地域行事への主体的な関わり…などを経て、子どもたちは地域に居場所をみつけ、地域の大人は意見を聴きまちづくりに反映。気づけば大人も子どもも地域のなかまとしてお互いリスペクト(尊敬)し認め合う関係となった。

### 地域性

久重地域は、高知市の北山標高約300mの中山間地域で、人口1000人が暮らしている。田園風景が広がる人と生き物の共存、希少な動植物やホタルが生息する生物多様性の豊かな里山である。一方、高齢化率は43.9%と高く、米作り農業を生業とする後継者不足が里山の保持を危惧する要因にもなっている。

### 活動のきっかけ

本団体は、2018年度に高知市子どもまちづくり基金助成事業「こうちこどもファンD」への応募をきっかけに、久重地域に関わる小中高生で結成した。電子機器を使用したゲームが遊びの中心である子どもたちには、先人が残してきた里山の原風景は見慣れた日常の

景色であり、その当時「久重は何もないただのいなか。何ができるかわからない」と里山での体験活動を想像できなかった。その後「地域を元気にしたい！久重の魅力を発見し地域内外に発信したい！」を目標とし、久重を知りつくれた達人との出会いから、里山での心躍る体験活動が繰り返し広げられる。

### 6年間の取り組み

- 七草採取
- 災害時にも活用できる野草料理のレシピ集作成
- 星の専門家を招き星空観察会
- 食資源の保存でピザにトッピング
- 9種類の野草でオリジナルブレンド茶「久宝」





採取した野草を包丁で切るのはお手のもの！すべて手作り。大鍋で七草粥

茶きゅうほうちや」を考案

○ホタル保全の啓発と看板制作

○中学生手作りの冊子『SDGsって何？』（絵

や漫画入り）で身近なSDGsの学習

○川上と川下でつながる市街地の中学生と環

境交流

○休耕田を景観作物で花いっぱい

○有用植物で軟膏づくり

○地域の防災イベントで中高生が小学生に防

災授業

○高知市コミュニティ計画『久重のまちづくり

計画』策定会議に参画

## 子どもたちの取り組みが地域に与えた効果

変容のきっかけは、2021年度に地域で



頭を寄せ合い意見を聴き合うなかまたち

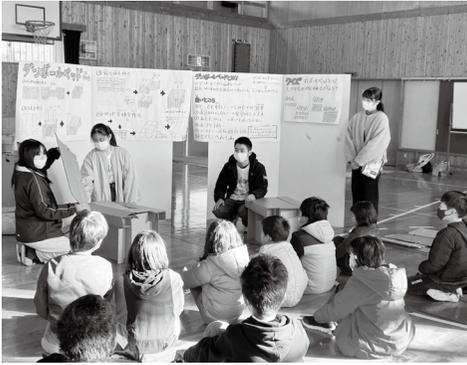
開催した第2期『久重のまちづくり計画』策定への取り組みである。会議には小中高生が参加し、久重の魅力を語る姿が会場を盛り上げた。会場の小学校体育館では、子どもたちがテーブルごとに分かれて座り、発表者は子どもたちが担った。コロナ禍の開催であったが回を重ねるごとに子ども参加者は増え会場を明るくした。

その当時、地域の大人はこう語っていた。

「第2期には、策定委員の3割近い子どもたちの参加がありました。子どもたちが地域で育ってきていることの証であり、久重地域の誇りです。最初は大人たちの手で始まった久重地域のまちづくりに元氣と力を与えてくれたのが、こどもファンドを通じて継続的にまちづくり計画を実践してくれている子どもた

ちや保護者の活動です。コロナでイベントを自粛せざるを得ない状況下であるからこそなおさらファンドの活動が地域活動を中心的に支えてくれているという感を強くしています。子どもたちと地域の成長を実感しながら、計画づくりができるのは本当にうれしいことで、また頼もしく感じることができました。」（久重地域連携協議会会長 林照男）

「久重地域がこれからのような形で発展、進歩していくのかを考える重要な会議『久重のまちづくり計画』策定に地域の将来を担う世代、小中高校生が多数参加してくれたことに非常に驚きましたが、それ以上に嬉しい思いがあふれてきました。2017年の第1期まちづくり計画の時には、小学生の意見として学校からの伝聞という形で参加でした。しかし、今回は会議に参加し、地域の今後についての考えを多くの人たちの前で堂々と、自らの言葉で語ってくれました。その意見について、子どもだからとか未熟だからとか否定することなく、地域の一員の意見として真剣にとらえ議論していく周囲の人たちの姿も素晴らしいと感じています。今回の策定会議に参加してくれた彼らの成長は、目を見張るばかりです。彼らに続く世代はその背中を見、共に学ぶことで成長していくのだと思います。久重地域にとらわれず、世界にはばたいてほしい、その時『久重に住んでよかった』



中高生が小学生に防災授業「この出っ張った所を挟み込みます」

と思えるよう、共に考え行動していけるよう私たちも頑張ります。久重地域まちづくりのスローガン『豊かな里山次代へつなげ!』を目標に久重地域の明るい未来に向かって。」(久重地域連携協議会事務局長 永野幸雄)

2023年、第2期『久重のまちづくり計画』冊子完成。高知市長報告にて子どもたちは、地域の未来への思いや自身の将来の夢を表明する。やがて「もっと地域の人と久重の未来について話したい、地域の会議に入って久重のまちづくりをいっしょに考えたい」と策定会議終了を惜しむ子どもたちの熱意が地域連携協議会役員会の議題にあらがり熟議された。その後、まちづくりに関わる一つの構成団体として、こども・わかもの会「久重Youth」が2023年4月29日に発足。以降、子どもと

大人が地域の一員として共にまちづくりに関わり、地域行事や地域課題を我が事として捉え解決へ向けた話し合いが実践される。これまで支えられる側だった子どもたちが若いパワーを発揮し、地域をリードするたくましさで優しさで主体的に活躍している。子どもも大人もお互いを尊敬(リスペクト)し合う関係となっている。

### 子どもたちの夢

子どもたちは、友だちと集まったり地域の人と交流したりする公園をつくりたいと夢を抱いている。子どもたちのがんばりに揺さぶられた大人は、子どもの思いに寄り添い山の提供や整備の応援を買って出る。子どもたちは小高い丘を「ひだまりの丘」と名付け、夢の実現に向けて取り組む。2024年3月「久重Youth」主催、「だいいかいきゅうじゅうこどもまつり」を開催し、自分たち考案の自然体験、里山遊びを地域内外の子どもたちに提供した。子どもたちの主体的な取り組みが新聞や書籍に掲載され、活動に賛同する地域内外の親子が新たなメンバーとして加入している。

### 将来性

久重地域では、日ごろから顔の見える関わ



誕生! 『ひだまりの丘』参加者大集合! 『手作り工作楽しかった!』

りを重視し「だれ一人取り残さない」取り組みを進めるものの、人口減少と高齢化の課題は今後ますます困難な状況となるであろう。しかし、里山を体験し地域の魅力を感じ、さらなる夢へと心はずませる子どもたちの姿はいつそう地域を勇気づける。子どもたちのゆるやかな取り組みは、ふるさとで「豊かに安心して住み続けられる久重」に向けて、地域の人々や、次の世代の仲間と共に新たなステージへ躍進する。

(久重naturalチーム)

大人責任者 武林由希子